

イネ紋枯病

本病は葉鞘に斑模様の病斑を形成し、病勢が激しいと倒伏の原因ともなる。本県では7月下旬頃から発病が確認され、8月以降に多くの地域で発生が認められる。県内での発生が平成26年以降目立ってきている病害虫の一つである。

1 病徴

病斑は主に葉鞘に形成される。病斑は周縁が緑褐色ないし褐色、中央部が灰白色の楕円形となる（写真1）。一部菌糸や菌核も認められる。



写真1 病斑の形状

2 発生生態

本病は菌核で越冬し、イネの移植後に田の水面上から菌核が葉鞘に付着し、感染する。発病すると下位葉鞘に病斑を形成し（写真2）、隣接の葉鞘、周囲の株に進展する（写真3）とともに上位葉鞘へ進展する（写真4）。病勢が激しいときには葉鞘、葉が枯れ上がり、茎が弱くなり倒伏しやすくなる（写真5）。

病斑から菌核が形成されてほ場に落下し、そのまま翌年の感染源となる。また高温、多湿条件、多肥栽培は本病の発病を助長する。

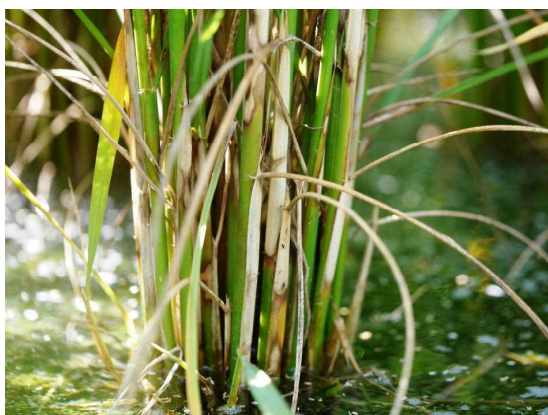


写真2 下位葉鞘の病斑

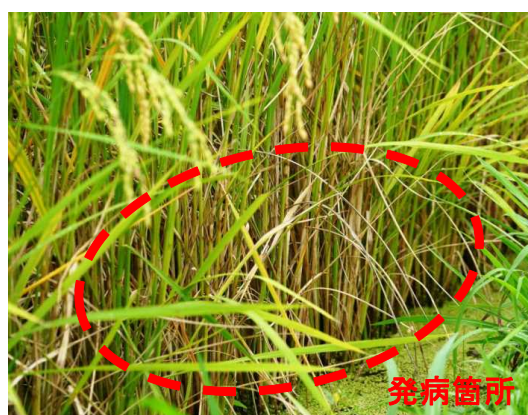


写真3 発病が広がったイネ



写真4 上位葉鞘への進展（止葉葉鞘）



写真5 病勢の進展したイネ

3 防 除

薬剤防除や、耕種的防除として元肥の窒素量や栽植密度を抑える等の方法がある。薬剤防除の薬剤名及び施用時期については「福島県農作物病虫害防除指針」及び福島県病虫害防除所ホームページを参照ください。[\(http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/\)](http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/)